

95活動テーマ『まちがった考えや偏見を子どもや孫に伝えないこと』

## 本年度の主な活動報告

### 地区懇談会 1995年7月～9月

昨年7月より9月にかけて当地区7会場において地区懇談会を行いました。総参加者数126名でした。ビデオ観賞後の座談会では活発な話し合いが行われました。

「自分の気づかないうちに、自分もそうしているんだとわかった」

「身近なことが多く、人権問題を他人事ではないと思った」

「身近な差別と部落への偏見とつながっているところがある」

などの意見が多く出され、同和問題と自分の生活と結びつけて考えていた人が多かったと思えます。

ビデオの内容については、

「内容に深さが無い」

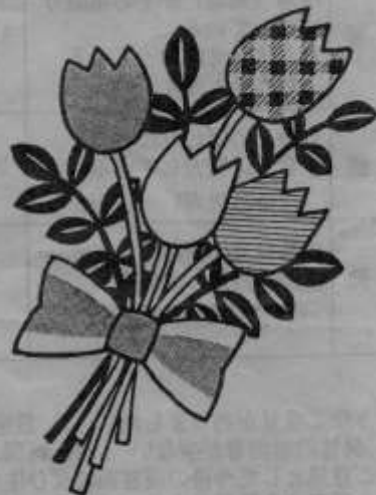
「もっとつっこんだ内容のビデオが見たかった」

「短いストーリーに問題が多岐にわたる感じがした」

など厳しい意見もありました。今回の懇談会をきっかけに、さらに学習を深めてみたいと思われる方は、同推協の委員研修会や市民大学の人権コース、市立図書館や海蔵文庫の同和問題コーナーなども利用してください。

懇談会の形式については、「いろいろな人の意見が聞けて良かった」という意見が多いのですが、若い世代の参加者が少ないことを心配する意見もありました。

現在では、学校教育の中に同和教育も含まれていますし、PTAなどの団体も個々に同和研修会を行っております。海蔵地区同推協は、それらの研修会に参加できなかった多くの住民のための啓発がとて大切だと考えております。誰もが住みやすい社会にするために、今後ぜひみなさまのご協力をお願いします。



## 第4回人権を考える集い 1995年10月13日

この人権の集いも第4回を迎え、障害者(児)問題、部落差別問題、高齢化社会問題に続いて今回は「いじめ問題」を取り上げました。講師に山中多美男さんをお招きし、各PTA、育成会の会員を中心に、学校の先生を含め、116人の皆さんに参加していただきました。山中さんは、いじめの克服に最も大切なことは、(1)個性を重視する(2)それを支える仲間をつくる(3)一人ひとりの違いを認めて共に生きることであり、そのためには大人の意識改革と地域社会全体で教育を考える運動の必要性を熟っぽく語られました。

参加していただいたみなさまのアンケート結果をまとめてみると

(1) いじめは決して許すことのできない人権の侵害である。

(2) いじめは大人社会の反映であり、その解決には意識改革が必要である。すなわち「いじめと差別は同じ構造であり人権問題である」と90%の方が理解しています。

当日のアンケート結果と、講師の訴えをおおまかに分類しました。

### アンケート結果

意識項目	アンケート結果	講師の訴えたかったこと
逃 避	理解が足りない あきらめに近い意識がある (ちょっと残念な結果)	8人 いじめに無関心ではいけない。 立ち向かう気持ちが大切である
理 解	理解(知識)がその場限り になっている 他人まかせになっている (他人事と考えている)	32人 いじめと差別は同じ構造である。 他人事ではなく一人ひとりの 問題としてとらえる事が重要 である。
共 感	自分との関わりに気づき、 子育てに努力している (プラス思考)	21人 子供たちの個性や人格を認める。 一人ひとりの違いを認める。
行 動	自分自身の課題として社 会的に行動している (高い意識レベル)	4人 大人の意識改革と、地域社会全 体で教育を考える運動が必要で ある。

### 反省点

次のようなご意見がありました。(1)設定曜日、時間帯の再考 (2)参加者が少ない (3)男性の参加者が少ない (4)時間が長い等

貴重なご意見として今後の運営面にぜひ生かしていきたいと思えます。またご意見のなかには、子育ての母親まかせの現状や、女性の社会参加への男性の無関心などの課題が見えかくれしているところがあります。今後の課題としてしっかり取り組まなければならない反省点と受けとめております。

第47回全国同和教育研究会参加記  
1995年11月25日～27日

昨年11月25日から3日間、伊勢市を中心に第47回全国同和教育研究会が開催されました。三重県での開催は1981年の第33回以来14年ぶりのことでした。

海蔵同推協では、同和教育の取り組みに対する全国的な傾向を知ると同時に、部落問題に対する認識を深め、今後の課題を探ることを目的に、役員全員の参加を決め、それぞれの分科会（社会教育部会）に分かれて参加しました。海蔵地区からは同推協だけでなく、各PTA、民生委員、人権擁護委員、婦人会など関係各団体の代表や、センターからも館長ほか二名の職員が参加され、それぞれに深い感銘を受けて帰りました。

1月19日に、全国同教参加報告会を開きました。14名の方が参加され、それぞれの印象を報告してもらいました。

「差別がなくならないのは、社会の構造が悪いと言うより、自分自身を変えていかないとだめであることに気づいた」

「いろいろな取り組みが行政主導でなく民間主導で行われていることに深い感銘

をおぼえた」などの感想が報告されました。

特に開会行事における三同教・大山田村同和教育研究会・松村智広氏による特別報告「へたくそでもええから胸をはれ、生きているうちに！」はまさに圧巻でした。全体会場である県営サンアリーナ全館を、立錐の余地もなく埋め尽くした観衆の前に、

「差別は人と人を切り裂く刃物である。人間の誇りを奪い、時には命まで奪う凶器である。同和教育と言うのは人と人を結びつける接着剤でなければならない。どのような啓発活動も、そこに魂が入っていないければ単なる部落問題の物知りをつくるだけである。部落問題を知性・理性で理解するだけでなく、感性で認識できるハートと力量を身につけることが大切である。」等々1時間余りにわたって熱っぽく語られた姿に惜しめない拍手の嵐が巻き起こり、多くの聴衆を感動の渦に巻き込みました。まさに全国大会開会にふさわしい報告でした。



地区交流研修会 1996年2月26日



それぞれ個人の問題として見るのではなく、部落全体のイメージとしてとらえてしまっていることにむしろ問題がありはしないだろうか…などの発言もあり、まちがったイメージが一人歩きしてしまうことの恐ろしさに気づききっかけになったようです。

参加者の感想でも「今日の話し合いが一番よかった」「神前の人胸の内が聞けて、やっと自分自身の問題であることに気がついた」などの声も聞かれました。

『有意義だった交流研修会』

神前同推協のみなさまを迎えて、私たち海蔵同推協委員との地区交流研修会が開かれました。

「部落は怖い」といった意識が私たちの心の奥深い所に潜んではいないだろうか？また、現在も続く部落差別を許してしまっているものはいったい何なのか？

んな疑問や思いを語り合うことから分科会は始まりました。各班では、交通事故や結婚の問題、市内で続発する差別落書きや職場での差別事象など具体的な課題が出され、それぞれに自分自身の生き方を重ね合わせながら討議が進められました。

「やっぱりなあ、あそこのもんは」の軽い一言の裏側に、怖い、暗いイメージが隠されています。「言葉づかいが悪い」「集団で押し掛ける」などのイメージを

最後に今回の地区交流会の内容や雰囲気素直な気持ちでとてもよく表してくれている一人の参加者の感想を紹介して報告を終わります。

身近な人が差別的な考えられているのに、まわりに気を使い（その意見に）流されている自分に反省しています。

今日の地区交流会はとても意味のあるものと感じました。

ご意見をお寄せください（海蔵地区市民センター内事務局）